

書牘卷之二（六）

手附金請取証文^證

覚^覚

一、何品 幾「包・箱」

但何貫何百目ニ付、何拾円替、^圓

右品書面之相場ヲ以て売^賣

渡候ニ付、其手附として内

金何円正ニ受取申候、尤^圓

品物之儀は全金ニ引換、^者

来ル何日までに相渡申へく^尔久

候、後日のため証書さし入^證

候也、

明治何年何月何日

売主 何某

何某殿

※漢字は全て新字体に直したが、原文が旧字体に近い書体で書かれている場合は、右脇に旧字体を添えた。

※変体仮名は現行の平仮名に直した。なお、字母に当たる漢字を右脇に添えた。